

私が東大研修に行こうと思ったきっかけは、みんなが行くからなどという安易な理由などではなく、東京大学というものにふれ学生の皆さんと話すことで自分の中の勉学や志望大学に対する意識が何か変わると思ったからです。迷わず研修に申し込んだ私は企業訪問というものの存在を知りました。それは東京の企業にお邪魔し話を聞くというものでした。どの分野の職業に興味があるか参加生徒全員にアンケートが実施され、それを元に班分けが実施されました。私は生物学系のところを訪問したいと考えていましたが、あいにく私の班の行き先は宇宙工学系のところとなりました。でも私は工学にも少し興味があり、生物学系のものにしか触れたことがなかったのでも他の分野に触れるのも良い経験になると思いました。

研修は準備の段階から随分と忙しく、特に企業のアポ取りに苦労しました。私は副班長として一度企業にお電話をさせていただいたのですが、とても緊張しましたが会社側の方の優しい対応のおかげでどうにかアポを取ることができました。決まったのは嬉しかったのですがその後の質問を考える時も苦労しました。でもみんなでしっかり協力でき、質問は沢山考えられて良かったです。

一日目はまずディレクトフォースと笹川平和財団のみなさんのお話を聞きに行きました。国際社会で活躍する方々の貴重なお話を聞くことができました。私はあまり海外に関心が無かったので今回話を聞いたことはとても新鮮で、海外で働くってこういうことなんだと実感しました。高校を出てすぐに海外に行ったという人の話を聞くのはとても印象に残りました。海外留学ならでは苦労や周りの人、親の反応などここでしか聞けないことをたくさん質問することができ、気になったことを質問できたということもとてもこの行事の魅力的なところでした。若いうちに大きな決断をすることは人生にもあってもいいのかなと思いました。

午後は企業訪問に行きました。私たちは株式会社アクセルスペースに訪問させていただきました。先生無しでの生徒のみのこのような行事は初めてでとても緊張しましたが、企業側の方々の易しい対応のおかげで少しずつではありましたが緊張がほぐれていきました。お話はどれも興味深いものばかりで質問が次々に思い浮かんできました。私が訪ねたところはベンチャー企業であり、ベンチャー企業ならではの大変なことなどを聞くことができました。さらに今後の事業拡大のための新しい宇宙計画の話も聞くことができました。地球の周りに総勢50機もの衛星をとばすというとても壮大な計画で感銘を受けました。

またその後、実際に衛星を製作している現場を見せていただきました。作業場の方々はとても真剣な眼差しで仕事に取り組んでいました。外国の方もいて国際的な会社だなと思いました。衛星の管理にはとても気を使っていて、常に綺麗な状態であるように綺麗な空気を送り続けていました。さらに衛星輸送用のコンテナも見せていただきました。気温や気圧までも管理しなければならないと聞き、とても気を使う職業だなと思いました。そんな苦労の多そうな企業でしたが、働いている方々の顔はとても生き生きとして自分のやりたいことができる職業に就くことの充実さを感じました。

その後ホテルに集合し、美味しい夕食をいただいた後、東京方面（主に東京大学）に進学なされた二高の先輩方との懇談会がありました。いろんな先輩の話を聞きましたが、共通して言われていたことは授業中に内職をした方が良いとうことでした。でも、今の授業では内職することは難しそうなので、家での勉強を徹底してやりたいです。また、僕が一番危惧していたことは大丈夫でした。なぜなら部活は忙しくても大丈夫だとわかったからです。もちろん文化部の人が多かったのですが、とりあえず安心できました。他にも様々な高校生活を生き抜くために役立つことを教えていただき、とてもありがたく今後頑張ろうと思いました。

二日目は東京大学オープンキャンパスに行きました。私は基本的にずっと生物学の展示にいました。まず入ってすぐに講義に参加しました。それは「メダカから学ぶ動物の形作り」というものでした。メダカの背びれや尾びれを使って動物の形作りについて考えるものでしたが、とても興味深く驚かされることばかりでした。四十分という普通の授業より短いものでしたが、中身の非常に濃い素晴らしい授業でした。東京大学ではこのような素敵な授業毎日のように受けることができ、東大生は幸せだなと思いました。

その後は、生物化学科や生物情報科学科、生物科のブースを回っていました。すべての展示について学生の方に説明していただきました。まず、「神経を守る仕組みと ALS の緩和」についての展示を見ました。これはマウスの遺伝子実験を利用して人の病気の ALS を直すのに役立てようとしているというものでした。人の役に直接役に立つこのような研究はとても素晴らしいものだと感じました。

次に、「一分子・一細胞解析～平均値計測からの脱却～」という展示を見ました。これはとてもアイデアが独創的で話を聞いているときに何度も頷き、感心しました。

三番目には「ナノサイズに支配されるゲノムワイドな遺伝子発現」についての展示を見ました。これはセントラルドグマについてのものですが、授業では教わらなかったことがたくさん出てきて驚かされることばかりでした。習っていなかった知識が増えてとても良かったです。一番びっくりしたことはメッセンジャーRNA、トランスファーRNA、リボソーム RNA の他にも RNA があったということです。まるで今までの常識が覆ったようなくらいびっくりしていました。

最後に見た「光シグナル受容と生物時計～分子から個体へ～」という展示は

最も印象に残りました。二つの実験について話を聞いたのですがどちらもとても面白かったです。一つ目はゼブラフィッシュが背景の色に合わせて自分の色も変えるというのが大きくなったり、小さくなったりしているのはとても神秘的でした。

二つ目の実験はマウスを使ってうつ病に効く薬を試すというものでした。マウスに注射したところ今まで臆病だったはずのマウスが急に活発に動き出していました。このことに僕はとてもびっくりしました。

最後の実験は、真っ暗な状態の環境にマウスを置き、体内時計がどう働くかを調べた実験でし

た。記憶力などの実験をして、わかったことは記憶するのに良い時間帯は夜間だったそうで、人間に置き換えて考えてみますと、行動時間帯の昼間が良いそうです。

また、太らないように食事をするためにはネズミにとって夜つまり人にとって昼がいいそうです。そこで説明していた学生の方が、「この結果から人間にとって夜間に勉強しながら夜食やおやつをとったりすることは学力面でも健康面でもよくないことがわかるので、学生さんは気をつけてくださいね（笑）」とっていました。

東大の学生方はとても親切で、また私たちに説明して下さるときも専門用語わかりやすいように言い換えてくださいとても助かりました。そんな東大生を見て改めて東大の凄さを目の当たりにしました。

この東京方面見学会を通して私は勉強に対する気もちようをもう一度見直すことができたと思います。この見学会に参加できて本当に良かったです。最後になりますが、この会を企画したくださった先生方、お忙しいにもかかわらず私たちのために協力してくださった方々に感謝の意を示したいと思います。誠にありがとうございました。